

「ママ、シュッチョー」1歳半の子どもが最初に覚えた二語文です



香山 瑞恵

Kayama Mizue

学術研究院工学系 教授
(工学部 電子情報システム工学科 教授)

長野県出身。信州大学工学部情報工学科卒業。電気通信大学大学院情報システム学研究科博士前期課程・後期課程修了。2000年博士(工学)取得。2007年信州大学工学部助教授として着任、2014年より現職。

【学生へのメッセージ】

好奇心を大切に。できるだけいろいろなことにチャレンジしてみよう。チャレンジする分野は、資格取得でも、社会勉強でも、遊びでも、趣味でも、習い事でも、旅行でも、食事でも、なんでもOK。チャレンジに、男子も女子も関係ありません。チャレンジのチャンスは、自ら作り出すもの。チャンスを見つける時も、チャレンジしている最中も、きっと、新しい発見があります。新しい自分に出会えます。そして、チャレンジしたことに対して、自分に合うかわらないか、どこが好きでどこが好きになれないのかを考えてみよう。合わない場合や好きでない場合には、どうすれば自分的に楽しめるのか、どうやったら自分として楽しくなるのかを考える。そうやって考えてみると、人生がハッピーに思えるようになる気がしませんか。



最近の国際会議での受賞成果。国内外に認められる研究はやりがいがあります。

「Let's Go Go!マジカル・スプーン」
符号化の教材ツール。スプーンで飛行船をコントロールします。幼稚園生から大学生まで約30,000人が学んでいます。

研究していることがとても楽しい

Learning Science、Learning Technologyの研究をしています。日本語にすると、学習支援工学。人間の知的な活動を分析・支援する工学研究分野です。私の研究対象は主に2つ。1つ目は身体知研究で、2つ目はコンピュータサイエンスの基礎概念理解です。1つ目の身体知研究では、芸術分野やスポーツ分野を取り上げます。芸術分野では、絵画や彫塑の基本であるドローイングや、音楽や合唱の基礎となる発声を対象にしています。ここでは、初学者さんが上達するプロセスの解明や、初学者さんの誤りの分析をします。スポーツ分野では、長野ならではのスポーツであるスピードスケートや、全てのスポーツの基本であるウォーキングを取り上げています。人工知能研究における機械学習手法を応用した解析や、動きの可視化システムの開発に取り組みます。

もう1つの研究対象である、コンピュータサイエンスの基礎概念理解については、モデリング・アルゴリズム、情報通信、符号化といった分野を対象に、学習者の誤り分析と、それに基づく学習ツール・デバイスの開発や学習支援環境の構築をしています。どちらの研究対象でも、学習者がより効果的にかつ効率的に、そして高品質な知識獲得の支援ができます。研究していることがとても楽しいし、ハッピーになれます。

子どもは多くの時間を夫と過ごす

信州大学着任後第1子を出産しました。子どもが7か月の時期に国際会議に子連れで参加以後、子どもが自分で安定的に立位歩行できるまでは学外活動に極力子連れで参加していました。現在は小2になりましたが、1歳半くらいの子が覚えた二語文が「ママ、シュッチョー」。学会出張や会議等で、家を空けがちな私に対して、夫は自宅勤務。家事の大部分は、夫が担ってくれています。学内会議の時間延長で子どもと約束していた保育園のお迎えができなかった時も、突発的な学生面談が生じて子どもの学校のPTA活動に参加できなくなった時も、夫が状況を察して、すぐに行動してくれました。多くの時間を夫と過ごすので、子どもと夫は知っているけれども私だけが知らないことや、子どもと夫はできるけれども私だけできないことが増えていったりします。ブレードボードもその1つ。私も遅ればせながら練習して、なんとか乗れるようになりました。週末は、家で一緒にゴロゴロしたり、映画や科学館・美術館に出かけたりと、24時間子どもとベッタリ一緒に過ごすのが、私にとってのリフレッシュ法です。

研究者としてスパルタに鍛えられた時期があっこそ

学部生の頃は、授業と研究の時間(朝



File
I

自宅でも子ども研究中。プログラミングって楽しい♪

10時～夕方5時まで)しか、大学に居ませんでした。もっぱら社会活動に精を出していた学生でした。大学院の頃は、ほとんど寝るためだけに自宅へ帰る生活になりました。ただただ研究を深めたい一心で、肉体的にも精神的にもあまり健全ではなかったかもしれません。リフレッシュは、帰宅途中のバーでのヒトトキ。閉店間際に飛び込んで、1杯1品をいただくのが何よりの幸せでした。

一人1研究を方針とする研究室だったので、研究方針や研究進捗管理は自分一人でしなければなりません。また、教授との打合せにも一人で臨まないといけません。今から振り返れば、研究者として極めてスパルタに鍛えられた時期でした。そのお陰で、現在、自分の研究室の運営ができていると思います。

●● 仕事の相棒!

子どもからのプレゼント



ハッピーのもと・元気のもと、子どもの作品。子どもと夫が出かけた先で作ってきたモノや、私へのプレゼントとして作ってくれたモノなど。季節を感じるモノもあるので、研究室のドアに掲げたりしています。研究室の前を通った方にもハッピーを感じてもらえるとうれしいです。